

# 牧草と園藝



# アメリカ中・西部の農業をみて

—中部の巻—

札幌研究農場 三浦 梧楼



アメリカ農業の規模は大きい。農地区画は1セクション(日本の1戸分?)が256haである



栽培作物はとうもろこし、大豆と牧草又は麦類と単純



とうもろこしの栽培は穀実(グリーン、又はシエルコン)用とサイレージ用のそれぞれ利用目的に適応したタイプのものをつくっている(左サイレージ用、右穀実用、熟期はほぼ同じ)



アメリカのとうもろこしの多収を支えているものにはF利用、安定収穫の早生系利用さらにチッ素肥料(液肥)の追肥がある。施用全チッ素の $\frac{1}{3}$ は追肥、どこでも見かける追肥用のトラクタータンク



大豆栽培の歴史はまだ30年前後と浅いが、土性、気象条件に恵まれ技術の進歩で収量は高い。1973年全米のチャンピオン695kg/10aの記録保持のタノー氏(インディアナ州)の大豆畑